

留学のススメ

自分がこの英語研修に参加した理由は、生活に刺激が欲しかったからです。3週間という短い期間だったので、英語が話せるようになることはあまり期待せず参加しました。1年生や2年生はまだ新しいことがあります、3年生になると惰性的に過ごしてしまいがちです。自分自身がそのような感じでした。周囲の同級生は就活を始めていてこのような時間はなかなか取れなかったようなのですが、幸い自分は大学院に進学予定で比較的時間を作ることができました。少し苦しかったですが、金銭的な理由から研修費用は自費で行きました。しかし、自分のお金で行っているということで良く働いたことが多かったように感じました。

自分たちが行ったのは、パースというオーストラリアの西に位置する都市です。日本の2～3月はまだ寒いですが、南半球であるオーストラリアは真夏でした。気温は30度を超えることが多く、最高気温が40度ということもありました。とにかく日差しがかなり強く、あつというまに日に焼けてしまいます。ただ、日本と違ってカラッとしているので日陰は涼しかったです。

現地ですぐ感じたことは空でした。オーストラリアの空はきれいに晴れていて、遠く、そして広いです。言葉で表すのが難しいですが、180° すべて空といった感じです。

パースはとてもきれいな街でした。近代的なビルと整備された芝生、大きな川が混在していて、街そのものが見どころといった感じでした。パースを歩いていて気付いたのですが、いたるところにゴミ箱があったせいか、ほとんどゴミが落ちていませんでした。それがまたこの街の景観を保っているのだと感心してしまいました。



- ▲ オーストラリアはどこを歩いても楽しめます。すべての道にはそれぞれ名前がついている(写真左)ので自分がどこを歩いているのかすぐに確認できます。

交通手段はバス、電車、フェリーと幅広く、すべて **Smart Rider** という日本の **SUICA** のようなもの 1 枚で利用できます。 **Smart Rider** は乗る時と降りるときにタッチします。日本と違ってバスは手を挙げないと止まってくれません。一回手を挙げ忘れてバスが通り過ぎてしまったことがありました。また、市内中心には **CAT** という無料バスが通っていて市民の足として活躍しています。名所の近くも通っているのでただ乗っているだけでも楽しめました。

英語研修プログラムは、自分たちと同じように他国から英語を学びに来ている生徒と一緒にカーティン大学で英語の授業を受けるというものでした。自分の所属していたクラスには、日本人のほかに中国、サウジアラビア、クウェート、リビアから来ている生徒がいました。他国の生徒は普通に英語を話すことができましたが、ライティングが苦手なようで、単語の意味などをよく質問していました。しかし、授業に対して非常に積極的で、日本のように先生に指名されないと答えないということはなく、今までいかに自分が能動的に授業を受けてきたかわかりました。授業は参加型の授業で 2 時間があっというまに過ぎてしまうほど楽しく、興味深いものでした。結局、英語が話せるようにはなりませんでした。英語に対する壁がなくなりましたし、英語を学ぶということの楽しさも感じるようになりました。

自分のホストファミリーは 70 代のご夫婦でした。オーストラリアに到着した翌日にはコッテスローコーストという海岸に連れて行ってくれたりしてかなり気を使ってくれました。彼らは英語になまりを持っていて、“u” の発音が“o” のように言っていたので“bus” が“ボス”に聞こえたりして、少し苦労しました。最初の 1 週間くらいはあまり話せませんでしたが、最後には笑いながら話せるようになっていました。また、家ではテレビを一緒に見ていることが多かったです。ドラマは内容が全然わからなくて大変でしたが、バラエティー番組は映像と合わせればなんとか理解できました。

食事については、朝晩は家で、昼はお弁当とすべて作ってくれて、週末で大学の授業がないときでもお弁当を持たせてくれたのはすごく助かりました。朝はトーストやシリアル、昼はサンドイッチと果物を丸ごと、夜はサラダと肉か魚、スパゲティーといった食事でした。



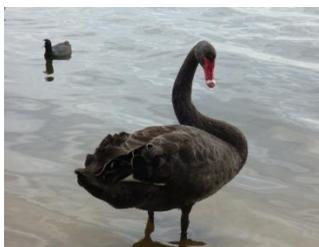
▲ 左から朝食、昼食、夕食。こればかりは運任せです。

自分がこの研修に参加したのは刺激が欲しかったからと書きましたが、十分な刺激が得られ、たくさん感じるものがありました。

まず、この研修によって積極的になれました。大学の授業のディスカッションでは話さないとおいて行かれてしまいますし、なによりみんな本気で学んでいます。積極的にならざるを得ません。また、自分は休日の自由行動は単独で行動をしていました。全く知らない場所をたった一人で進んでいくのは、何にも変えがたいワクワクがありました。今回は5日間(うち1日はホストファミリーと出かけたので実質4日間)のフリーの日がありましたが、すべて違う場所に行きました。是非、これから留学に行こうと思っている方は、1日でもいいので一人で見知らぬ場所に出かけてみてください。なにげない道、建物、動植物。すべてがまた違って見えてくるはずです。そして他人じゃなく、自分自身でそれを受け止め、感じて下さい。

異文化に触れることもできました。同じクラスにリビアから来た女性がいて、宗教上の理由から常に顔を含めた全身を黒いスカーフで隠していました。スポーツなどもしたくてもできないそうです。写真も写ってはいけないそうです。リビアでは内戦が起きました。内戦ではたくさんの方が死んでいます。ニュースでしか知らないその国の方が、自分と英語を勉強しながら笑顔で会話をしているのです。兄弟もたくさんいると言っていました。どのような思いで英語を学んでいるのか考えさせられました。

新たな価値観にも出会えました。これは同じクラスの日本人だったのですが、白髪交じりの頭でおそらく30代後半の方だったと思います。結婚もされていて、子どももいるそうです。彼は大学を卒業した後、プログラミングを扱う会社に就職したそうです。14年働いて日本に飽きてしまってオーストラリアに来たそうです。カーティン大学で英語を学び、専攻の勉強もし、卒業して海外で働くのが夢だそうです。英語は大学1年生からやっていたそうです。こんな決断なかなかできるものではありません。人には様々な生き方があります。なんだか大きな衝撃を受けてしまいました。



▲ 砂浜はくつを脱いで歩いてみましょう。(写真左)

珍しい動物が見たかったら会いに行ってみましょう。(写真中央：ブラックスワン)

お腹がすいたらちょっと入りにくい店にも入ってみましょう。(写真右)

自分は数少ない 3 年生として今回の研修に参加しましたが、自由に使える最後の長期休暇を今回の研修に使えて良かったと思います。これから留学を考えている 1、2 年生の皆さんは早い内からこのような経験ができて羨ましいです。3 年生の皆さん、大学生で自由に使える最後の休暇に素晴らしい経験ができます。是非、楽しんでください。

今後はこの経験を活かして、目的意識を持ち、物事に積極的に働きかけていきたいと思っています。英語の勉強も始めたいと思います。今回の研修を企画してくれた方々、自分に英語を教えてくれた先生、一緒に勉強をした仲間達、そしてお世話になったホストファミリーの Pamela と Matthew に心より感謝します。ありがとうございました。

《コラム》

個人的に現地に持っていくといいと思うものを紹介します。

- つめきり…みんな忘れがちだと思います。3 週間もあるので。
- スリッパ…1 日中くつを履いていると蒸れます。家の中はこれで。
- 食べ物…自分のステイ先は夕飯が 17:30 だったので夜はお腹が空きました。
- お土産…持っていきましょう。話のネタになります。
- シャンプーなど一式…自分のステイ先はシャンプーがありませんでした。
- 日焼け対策…日焼け止めは必須です。帽子、サングラスも推奨します。
- ガイドブック…観光地の地図はありがたいです。
- スマートフォン…地図のアプリはいざというとき使えます。オフラインで使える辞書アプリも入れておくと便利です。自分は「ウイスタム英和・和英辞典」をインストールして行きました。ご参考までに。
- クレジットカード…現地では VISA、Master、アメリカン・エクスプレス、JCB の順番で使えたと思います。自分は JCB を持って行ったのですが使い物になりませんでした。持っていくなら VISA か Master を。空港でも使えます。